

# ベトサダニュース

NPO法人  
自立支援事業所ベトサダ  
〒001-0021  
札幌市北区北21条西2丁目  
1番3号

TEL 011-716-5130  
FAX 011-708-7117

http://www.npo-bethesda.com  
mail: office@npo-bethesda.com

## 代表より挨拶



十一年前、なんもさサポートの活動の一環として、生活保護に頼らないで仕事で頑張れる場『北幌荘』を立ち上げ、この間多くの方々の支援を頂きながら彼らを支えて来ました。しかし、ちよつと手を貸さなければならぬ人たちが年々増加して来ました。特に自立支援法、労働者派遣法の改正により、若者たちが急増しました。

2009年6月にNPO法人ベトサダとして発展的に独立し、故眞鍋千賀子が代表理事として事務局もすっかり体制を組み、約8年間多くの支持者の方々の応援を頂きました。

この度、突然の訃報で今後の体制を作るにあたり、立ち上げ当初から携わって来た私、中塚が、なんもさサポート代表を辞して、NPO法人ベトサダの代表理事をお引き受けすることになりました。

## 朝回りにて



思い起こせば前代表と何度も打ち合わせをし、全ての生活困窮者が自立した生活ができるように支援して行く。そのために「愛」をもって支えることで合意し、その後、火事に見舞われたり、人間関係により事務局体制の崩壊など色々ありましたが多くの皆様のご指導・ご援助により乗り切ることができ、昨年度の生活困窮者自立支援法の施行により札幌市との関係も強化され、益々前に進んでいく所でありました。

前代表が「深い慈愛の精神」「敬虔なる信仰心」を持ちながら入社者を心配する立派な方でしたので、その役を引き継ぐとなると大変重たいものを感じます。

生活困窮者自立支援法も今後もっと拡充されて行くと思えますし、それらに即応し支援法が活かされるように「ベトサダ」も強化して行かなければならないと思えます。

代表就任にあたり、「ベトサダ」の心である「愛」を大事にして精励致す所存ですので、前任者に増してのご指導・ご援助を頂きたいと思えます。

代表理事 中塚 忠康

## 理事より挨拶

初めまして。私は4月からベトサダに理事として参加させて頂くことになりました。大西と申します。一昨年よりベトサダにボランティアとして関わっており、前代表の眞鍋さんから多くの事を学ばせて頂いてきました。

事務所に、たびたびお邪魔させて頂き、私のとりとめの話にずいぶん長い時間をお付き合いいただきました。眞鍋さんはいつも真剣に私の話を聴いて下さり、一度も聞き流すという事をされませんでした。

「わたくしは、心で聴きます。」とおっしゃっていたその言葉通りの方で、その姿勢を来談者の方にも、私も、誰に対しても向けてくださる方でした。

そのような、どんな言葉で表現してよいのかわかりませんが、多くの人々にとって大事な、貴重な存在であった眞鍋さんが昨年の秋に急逝されたことは非常に大きなショックで未だにどこか信じられないような気がしてなりません。眞鍋さんが魂を込めて作り、育んできたベトサダを存続させ、今後もNPO法人としてスムーズな運営ができるよう体制を整え、より充実した活動ができるよう、私もベトサダの一員として微力でありますが力を尽くしてまいります。

眞鍋さんのスピリット(ベトサダのスピリットという言葉を眞鍋さんはよく使われていました)を受け継ぎ、人と人の繋がりを大切にしながら、ベトサダの皆さん、支援者の皆様と共に前進していきたいと思っております。

これからも、ベトサダをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 【花言葉】 誠実な愛



【大西】

必要としている人がいる限り支えて下さる皆様がいます。これからの理事として、事務局員として、ベトサダの活動に力を注ぎたいと思えます。誠に、真摯に、心で、支援活動並びに行動をしていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

【佐藤】

## 施設長より

4ヶ月程、代表不在の形で運営してきましたが、4月初旬に行われた総会をもちまして新代表が決まりました。

眞鍋前代表と二人三脚で困窮者支援に携わって来た、なんもさサポート前代表・中塚忠康氏に新代表を受けて頂きました。

新代表と協力し、眞鍋前代表の遺志を受け継ぎながら、更に進化(深化)したベトサダを作り上げて行く所存です。



## 新スタッフより

4月に入り、新年度から、調理補助スタッフより支援スタッフへと変わりました。以前より、一層入社者との向き合う時間が増え、様々な人の人生に触れる機会が多くなりました。

私より、沢山大変な経験をし、様々な職に就きながらも、いま目の前にいるのは、失敗し生活困窮者となってしまう方々です。話を聞くと、周りの人間が羨ましがするような仕事に就き、豊かな暮らしをしているにも関わらず、ポタンの掛け違いで困窮するまでになってしまふ。

生活困窮者と、そうでない人の差は、本当に紙一重なんだと思う事があります。

私も失敗し困窮してしまった側でもあり、そこから救ってもらった側でもあります。いま救う側として、自分出来る事を全力でやっています。救う側という言葉は、カッコ良くも思えませんが、何ら変わりないと思えます。

ベトサダの施設運営に目を向けると、3月一杯をもってスタッフが一人名退職したこともあり、マンパワーの低下は否めなくなっています。新たなスタッフができるまで、全員でこの難局を乗り越えたいと思っております。

この3月・4月で、何名かの高校生の施設見学を受けました。授業の一環として、自分の興味ある分野でのボランティア活動や研究を行い、プレゼンテーションをするとのこと。彼ら・彼女らが良い発表ができるように協力させてもらいました。

まだ若い方々が、困窮者問題に興味を持ってくれることは喜ばしい事であり、一人でも多くの方に私達の活動を知って頂くことが大切なことだと感じています。

間もなくここ札幌でも桜の花が開きます。厳寒に耐えたからこそ素晴らしい花が開く。ベトサダの入社者もそうあって欲しいと願っています。

【山崎】

「困っているなら助ける。」私がベトサダに来て思った事は、人と人の思いやりの気持ちは大切だということ。そこに利害など無く、思いやりという気持ちだけで人は行動に移せるという事。まだまだ学べる事も有り、毎日が学べる日であります。

眞鍋さんの意思を引き継ぎ、今後は変わらなさいいけないものは変え、変えてはいけないものを考えながら活動し、一人でも多く困窮していきまふの助けになれるよう精進してまいりますので、よろしく願います。

【吉川】

